

大阪日々新聞

三百
十号

西成郡大正區曾根崎村川村まゆと云々の二階にて
 情死の一件へ上福島山崎咲藏の二女一げ十九と
 つりの此方の方三味線のけいこ通人項より
 江戸堀三丁目三鳩安兵五世と云のの同此家へ
 心奪り互互知りあていつら忍びひら深き
 中とありて懐妊しんと子いれどなくあつたを
 幸に父咲藏も安兵五と夫婦せん吉と好まざればりあん
 状を取置られど焼く小火の付安の安兵五煙も胸ふらげも
 又下りすると聞及びて咲藏も心とつらき直七を頼て三月
 十五日の方直七一げ見する処安兵五も來合せ
 文珠のちちも出され其日別を又より日まの方へ
 皆よりらびてさんまげも奉公して身の過りも
 出来し上改めて夫婦せんと云られ得心しる
 ていんざんじ二階をか玉とつらま
 とも有べと兩人を二う久おんが怪
 しく物音聞へければ手燭を打て
 より見をがけい咽をきくか
 つと息絶り安兵五
 でい庖丁を腹ふつとま
 りゆとつらか終息
 又つら同村の人
 らん馬床あるまふやうんま
 若ひおと人忠告する 柳櫻記



花
 櫻